

【主な内容】

- 2…〈座談会〉吹田の障害者問題を考える
- 7…吹田市民の戦争史②小原吉男さん
- 8…「イラクで50人死亡」の報道の向こうに
- 10…青年探偵団④「城山公園予定地」を歩く
- 11…勝手に吹田遺産③釈迦ヶ池
- 12…吹田溺愛主義③大カーブの謎に迫る
- 14…戦火に散ったアスリート⑥辻源兵衛
- 15…いわみせいじのヨコシマ日記⑥



阪急吹田駅と豊津駅の中間にある「金田踏切道」。昔はここに市場があり、賑やかだった。街のあり様は移り変わるけれど、下町の人情はそのまま。

●表紙のことは

阪急吹田駅と豊津駅のほぼ中間に位置する「金田（かねでん）踏切道」。阪急千里線が高架にならないので、この踏切は千里線の歴史とともにある。「昔は踏切番がいて、電車が来たら手動で踏切を動かしていたよ。この道狭いやろ。事故や飛び込みでたくさん人が死んでしまったよ」とは近所の金物屋さん。終戦後、物資が配給の時代、このあたりに「山崎市場」が建てられたが、火事で燃えてしまい、以後道路沿いに商店が並んだ。「万博の頃が一番良かったね。豊津やJR吹田にスーパーができてから全然アカン」そうだ。

近所に住む金馬郁代さんは15年前から毎朝この踏切に立っている。「踏切が危ないから、最初は孫に付添って、吹2小学校まで送っていたんです。でも一人見るのも、みんなを見るのも一緒。それで毎朝踏切番してますねん」。

金田踏切道は、江坂への抜け道として朝のラッシュ時に混み合ってしまう。15年の歳月、子どもたちは「踏切のおばちゃん」と顔見知りだ。「子どもの数が減りましたね。この道も車ばかり増えて、商店街もなくなりましたし、ちょっと寂しいね」。その孫も社会人になった。

さてこの金田踏切道、行政区画は「泉町」なのに、なぜ「金田」なのだろうか？

「ハッキリしたことはちょっと…。金田（かねでん）という地名が珍しいのと、昔から金田地域には神輿やダンジリがあり、お祭りなどもありました。当時の泉町は田んぼばかりで、「金田に通じる踏切」と呼ぶほうが理解しやすかったのかもしれない」とは阪急電車広報部。

「千里山に遊園地があって、花見の頃は阪急電車の連結部にまで人が乗っていたよ。あの頃は社会全体に活気があったね」。金物屋さんの前を子どもたちが通り過ぎる。「チンチン…」踏切が鳴り始める。「早よ渡りや。危ないで」。人情はまだ失われてはいない。